

2019年度 文学部人文学部研究科における留学生就職支援の実施報告

国際教育交流センター教育交流部門

グリブ ディーナ

1. はじめに

留学生支援事業経費による就職支援事業は、2018年度までは国際開発研究科と人文学部研究科で共同で実施されていたが、2019年度より文学部・人文学研究科単独での実施となった。本稿では、文学部・人文学研究科の取り組みおよび事業への評価について整理し、報告する。

2. 就職支援事業の概要

本事業は文学部・人文学研究科・旧文学研究科・旧国際言語文化研究科の在籍留学生を対象とし、対象者の進路相談、キャリア支援、日本国内での就職支援を目的として実施した。

名古屋大学キャリアサポート室による全学支援と一部重なっているが、本部局は学内でも特に留学生比率が高く、また文学部・人文学研究科の学生の特色と強みを活かしたサポートを強化するために、本部局の学生に特化した支援を目指した。

更に、一部の留学生の中には就職活動の開始が遅れてしまう学生が毎年出てくる。部局ならではのきめ細やかさで、このような学生からの参加も取り込めるよう、部局内の身近なところで開催されるセミナーおよび個別相談は、あまり積極的でない、就職活動の開始が遅れる学生に利用してもらうことも主目的の一つとして、ポスターおよびメーリングリストによる周知とともに、個別の声かけおよび院生室巡回による周知も取り入れた。

2.1. 就職活動セミナー

本事業の一環として、まずは留学生を対象としたセミナーを、学内外の講師3名の協力を得て、次のとおりのスケジュールとテーマで計4回開催した。ここでは、筆者が担当した就職活動ガイダンスおよびキャリア相談を中心として述べるが、コミュニケーション能



図1. 留学生のための就職活動ガイダンス

力向上のセミナーについても触れる。

- 2019/07/10 留学生のための就職活動
- 2019/11/27 表現力向上のための話し方
- 2019/12/11 心のコミュニケーション術
- 2020/01/15 表現力向上のための話し方第二弾

学外のキャリアカウンセラーによる就職活動ガイダンスは、日本語で行われたものの、英語による質問も受け付けた。比較的少人数の参加が想定されたため、参加型イベントとして企画された。就職活動の流れと、インターンシップに関する説明の後、自己分析のワークショップ、そして自己PRのグループワークと発表練習を行なった。部局単独のセミナーならではの少人数での参加型アクティビティを実施できた。さらに、日本の企業から内定を得た博士前期課程2年生による体験談も好評であり、参考になったとのコメントが寄せられた。今後も、先輩講師による体験談および先輩との交流を中心とするイベントを企画していきたい。

また、本研究科学生の就職活動では、外国語能力等のハードスキルと並んでコミュニケーション能力を始めとするソフトスキルがアピールポイントになっていることから、表現力向上などを目指すコミュニケーションセミナーを3回開催した。3回のセミナーでは、講義、グループワーク、参加学生に対する個別指導とアドバイスが提供され、参加者から大好評だった。このような交流イベントは、就職活動によりストレス

がたまりやすい中でも、ちょっとしたトラブルについて話し合える場として、有意義であると考えられる。

2.2. 個別キャリア相談

浅川・白戸（2009）によると、留学生のキャリア構築においては、①高い日本語能力、②具体的なキャリアプランの構築、③積極的な就職活動の重要性とともに、④個別的支援の必要性が指摘されている。そこで、本研究科で就職支援を行うにあたって、個別相談を特に重視することとした。



図2. 留学生のためのキャリア相談

個別相談は、有資格のキャリアコンサルタントに担当を依頼した。このコンサルタントは、中国語が堪能で、中国の大学および企業でもコンサルタント経験があり、在籍留学生の大多数が中国出身である本研究科の環境に適していると考えられる。

個別キャリア相談は、主に日本語で行われ、英語による指導を希望する学生の場合、筆者が通訳で入った。

個別キャリア相談は2019年7月から2020年2月まで、下記の日程にて計9回実施された。

2019/07/27, 2019/09/28, 2019/10/17,
2019/10/24, 2019/11/22, 2019/12/16,
2020/01/18, 2020/02/22, 2020/02/28

原則、月に1回程度で定期的に、多くの学生が参加しやすいように、月曜日、木曜日、金曜日、土曜日と曜日を変えて計画した。当初は全8回の予定であったが、利用者からの要望に応え、2月に9回目を追加した。

個別相談は1回1時間で各日5回行った。合計31名、延べ人数で45名の参加があった。講師を信頼し、

ほぼ毎回申し込む学生もいた。なお、参加者の属性は次の通りである。

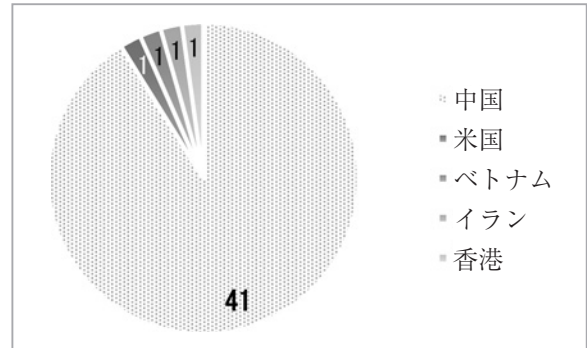


図3. 国籍別利用者数

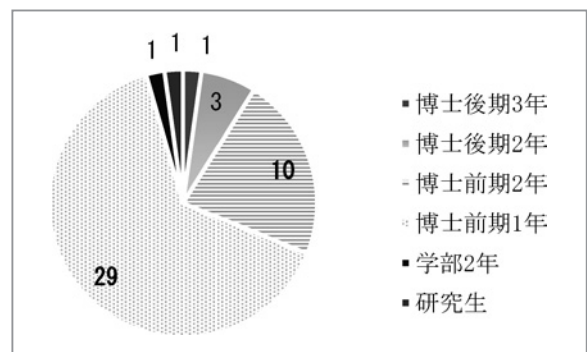


図4. 学年別利用者数

男女別で見ると、男性5名、女性40名の参加があった。国籍別および男女別の利用者構成は、本研究科の在籍生の構成とほぼ一致している。院生の利用者が圧倒的に多い点も、学部では在籍留学生の人数が少ない上に、ほとんどが大学院への進学を希望するという本部局の特性を表していると考えられる。

さらに、利用者の所属専門分野は、応用日本語学と日本語教育学などの学生が比較的多かったものの、様々な分野の学生に利用され、研究科で広く知れ渡ったことが窺える。ただし、利用した45名のうち、7名がG30プログラムの学生であり、在籍生の割合から見ると、利用率が高いことが分かる。

3. 個別キャリア相談の利用者からのフィードバックおよび就職支援事業の成果

年度末に個別キャリア相談の利用者に対してオンラインアンケートを実施した。アンケートでは、キャリア相談を利用した感想を匿名で答えてもらった。次に

利用者からのコメントを整理する。

アンケート調査によると、利用目的は、日本での就職活動に関する相談もあれば、将来の進路の相談、または就任後のキャリアデザインの相談もあり、多岐にわたっていた。

利用者からのコメントは、肯定的なものが多く、特に日本での就職活動を実施している学生、もしくは予定している学生から下記のようなものが寄せられた。

- 資料の日本語添削サービスは役に立つと思います。
- 紹介していただいたホームページがとても参考になりました。
- 私たちが頼れる人は学校と友人しかないので、今まで多数の名大生から多くサポートしてくれて、心から感謝してます。
- The staff I met gave me constructive advice on how to improve my resume and where to apply for the job on the website. I'm very grateful to her. I think it's a helpful program and I wish more students to benefit from it.

改善点としては、開催曜日に関する要請がみられ、さらに60分のセッションでは不十分であるとの指摘があったため、今後の課題としたい。

- 時間が思っていたより短かったです。

成果としては、博士前期1年生の利用者については、複数名が本学で得た情報を活かし、就職活動に計画的に取り組んでいることがあげられる。また、特定活動ビザで滞在中だった修士生および修士直前に利用した博士前期2年生からは、内定取得に繋がり、ためになったとの意見が寄せられている。

さらに、2020年2月に新型コロナウイルスの影響を

受けて就職説明会が中止になったり、面接がオンラインに切り換えられ、動揺する学生が出てきた。そのような中で2月中旬に2回の個別相談日を設け、影響を受けた学生のフォローを実施できた点も特記しておきたい。

4. 今後の課題

キャリアカウンセラーによる就職セミナーでは、日本における就職活動に関する情報を早期に提供し、またそれに付随するグループワークおよび発表練習では、参加者への指導および就職活動上に必要な能力の育成につながったと考えられる。ただし、G30の学生からのニーズが予想以上に高く、英語によるセミナーおよび先輩との交流会の開催も有意義であることが窺えた。日本での就職活動では、ある程度の日本語能力が求められ、日本での就職を希望するG30学生もそれを意識して、習得に力を入れている。しかし、情報収集の観点では、日本人と比べてどうしても不利である点は否めない。本学において就職活動の第1歩として、G30の学生に対して早期で正確な情報を提供することが有意義であると考えられる。

個別キャリア相談は、利用者からのフィードバックが非常に肯定的であり、今後もぜひ開催を継続させたい。利用者のニーズに答えるため、開催日および開催時間の調整が必要であると思われる。さらに、申込は原則先着順で受け付けたため、就職活動に積極的に取り組んでいる学生の利用が集中した反面、就職活動の開始が遅れがちな学生にも、より広く利用してもらえ、仕組みの構築が今後の課題となるだろう。

【参考文献】

浅川晃広・白戸絹江（2009）「留学生就職個別相談の実施に
ついて～個別の支援態勢の構築に向けて～」名古屋大学
留学生センター紀要、第7号